

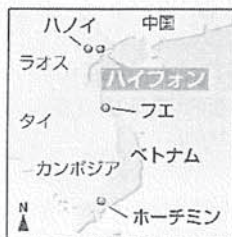
# ベトナムで効果実証

## 日系2企業に即日指導

### 弘大 新型健診

弘前大は14、17の両日、ベトナム北東部の都市ハイフオンの日系企業で、同大が開発した「啓発型健診」(新型健診)を実施した。ベトナム人従業員の健康データを本県のサーバーに送り、健康状態や疾病発症の可能性などを分析し、同日中に現地で健康指導を行った。弘大は、同国での新型健診の有用性を検証しアジア圏へ広げることで、住民の生活の質の向上と平均寿命の延伸を図りたい考え。

(菊谷啓)



14日は金属・機械加工の「飯山精器」(本社長野野郎、17日はプラントや住宅などの断熱材製造・販売などを手掛ける「ニチアス」(同東京)で行った。弘大側が、ハイフオンの日系企業に健診参加を呼び掛け、両社が賛同した。

弘大側のスタッフは同大の研究者のほか、花王、カゴメなどの企業のスタッフを含め十数人。17日は午前8時から、工業団地内にあるニチアスの食堂スペースで、現地従業員約340人、現地従業員約340人のうち、健康が気になる約40人を検査。体組成、握力、唾液、内臓脂肪、野菜摂取状況など約10項目を調べ、その結果を、マルマンコンヒューターサービス(弘前市)に送信。解析結果を受けて、同大フレイル予防学研究所の和野啓二助教が約1時間、結果の見方を説

明し、規則正しい生活習慣の大切さを強調した。立ち上がりテストに奮闘していたティン・テ・タンさん(44)は「結果がすぐに出るので興味深い。健康について楽しく学べた」と感想を語った。

ニチアス社の中野寿朗・ハイフオン工場長(44)は「健康があつてこそ良い仕事ができる。このような取り組みはありがたい」と話した。

弘大は来年度、国際協力機構(JICA)の補助を受け、ベトナム人の健康指導リレーを本県に招聘し、ベトナムで新型健診を実践する人材を育成する。

弘大COIの安川拓次副拠点長(社会実装統括)は「2企業とも関心を持って健診を受けてくれた。健診を継続し、効果を確信しながら、さらに健診を広げていきたい」と手応えを語った。和野助教は「ベトナムの人が病気の予防の意識を持つことで、企業にとっても貴重な人材を病気で失わなくても済むことになるし、医療費抑制にもなる。日本のヘルスケア産業の活性化につながる可能性がある」と語った。

ハイフオンはハノイ、ホーチミンに続くベトナム第3の都市。人口は約200万人で、約140の日系企業が進出している。現地の日系コンサルタント会社によると、弘大の新型健診について、今回の2社以外にも関心を持ち、見学に来てくれる企業があるという。

ニチアスハイフオンで、新型健診の握力検査を行う従業員(左)17日午前



啓発型健診(新型健診)

健診と結果判定、健康指導を即日行うことが特長。弘大と、国のCOI(センター・オブ・イノベーション)プロジェクト参画機関が、弘前市岩木地区で行っている健康プロジェクトで蓄積した2千項目以上のデータやノウハウを生かして開発した。